

令和 7 年 2 月 12 日

周南市長 藤 井 律 子 様

周南市市民参画推進審議会
会長 酒 井 徹 也

令和 5 年度 周南市市民参画実施状況について（答申）

令和 6 年 8 月 5 日付け周地推第 222 号で諮問のありました「令和 5 年度 周南市市民参画実施状況」について審議した結果、下記の通り答申します。

併せて、市民が市政に関心を持ち、主体的な市民参画の推進につながるよう、審議会委員の意見を提出します。

記

1 周南市市民参画条例第 6 条第 1 項に基づき市民参画を実施した施策の市民参画の実施状況の評価に関する事項

市の各機関では、条例の規定に基づき適正に実施していると評価します。一方で、パブリック・コメントについては「広く市民の意見を聞く」という趣旨に反して、意見を提出する人が限られ、特定の層の意見に偏る懸念があります。

パブリック・コメントに加えて、アンケート調査やワークショップ形式の討論会など多様な手法を組み合わせることで、多くの市民の意見を集約することが可能です。例えば、オンラインアンケートや地域ごとの小規模な意見交換会を実施することで、市民参画の幅を広げられると考えます。こうした手法を取り入れることで、市民参画の公平性と効果を高めることが期待されます。

2 周南市市民参画条例第 6 条第 3 項に基づき市民参画を実施した施策の市民参画の実施状況の評価に関する事項

市の各機関は、条例の規定を概ね遵守し、市民参画を積極的に推進していると評価します。特に「観光キャッチコピーおよびロゴデザインの改定における市民からのアイデア募集」や「スマートシティ推進におけるアイデア発掘会議」の取り組みは、創意工夫に富んだ事例として評価できます。これらは、市民参画を単なる形式的なものにとどめず、市民の創造性を引き出す試みとして高く評価できます。

こうした独創的なアプローチを他の分野にも展開することで、市民参画のさらなる活性化が期待されます。例えば、教育、福祉、防災といった多様な分野で同様の手法を活用することで、市民参画の広がりを実現できます。

3 その他市民参画の推進に関する事項

- ・複数の市民参画の方法を組み合わせた実施

条例では「必要と認められるときは、複数の市民参画手法を組み合わせて実施する」ことが求められていますが、現状では単一の参画方法に頼るケースが多く見受けられます。

ワークショップ、アンケート、市民説明会、パネルディスカッションなどを組み合わせることで、市民の多様な意見を効果的に反映できます。

- ・市民からの意見・提言の反映状況の周知

市の各機関では、市民から寄せられた意見や提言を施策に反映している事例が数多くありますが、その実績が十分に市民に伝わっていません。

市民参画を通じて得られた意見がどのように施策に反映されたかを広報する仕組みを強化することを提案します。具体的には、市報や SNS、市ウェブサイトでの特集記事の掲載などが有効と考えます。

- ・所管する部署について

市民参画は、市全体のまちづくりに関わる重要な活動であり、広聴的側面も含むことから、企画担当部署（例：企画課、広報広聴課）を所管とすることが望ましいと考えます。

広報広聴課を中心に、市民参画活動の周知と運営を行い、各分野の専門部署と連携する体制を構築することで、参画の効果がさらに高まります。

4 総 評

現代社会は「VUCA（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）＊」と呼ばれる時代に突入しており、日本全体が人口減少と少子高齢化の課題に直面しています。このような中で、誰もが自分らしく活躍できる社会や、人口が減少しても安心して暮らせるまちづくりを実現するためには、市民と行政の協働がこれまで以上に求められます。

周南市は、瀬戸内海に面する豊かな自然環境と、工業都市としての先進性を併せ持つ地域です。さらに「人のつながり」を大切にする市民性や、地域イベントでの協力など、強いコミュニティ意識が市の大きな特長です。こうした市民の特性は、市政への参画を促す上で非常に大きな可能性を秘めています。

また周南市では、市民参画制度が他市に先駆けて早い段階で制度化され、一定の成果を挙げています。しかし、現状として多くの市民がこの制度を有効に活用しているとは言い難い状況です。市民一人ひとりが主体的に市政に参画し、その声が施策に反映される実感を得られるよう、さらなる工夫が必要です。

これまでの審議を通じて、本市の市民参画制度が継続的かつ組織的に取り組まれていることを確認しました。一方で、これらの取り組みが市民に十分に伝わっておらず、「市政に意見が反映されている」との実感が市民の間に広がっていない現状も明らかになりました。

これからの周南市におけるまちづくりには、市民参画をさらに推進し、周南市ならではの「つながり」の文化を生かした取り組みが重要です。地域資源や市民の知恵を最大限に活用し、老若男女を問わず多様な市民が対話を通じて意見を共有し、「みんなでつくるまち」を実現する仕組みを構築する必要があります。

本答申は市長への提言であると同時に、市民へのメッセージでもあります。市民一人ひとりが参画を通じて「自分たちのまちづくり」に積極的に関わり、その声が施策に反映される喜びを実感できる社会を目指して、この答申がその一助となることを願っています。

*VUCA: Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性) という4つのキーワードの頭文字で構成された造語。